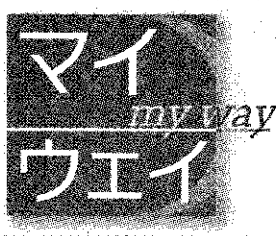


教えること

大学の専任教員になって、宗教家教育法や一般教養の宗教科目以外に、学科の専門科目として教育内容方法論や比較教育学等、教職員免許の科目でありながら、どちらかという理論に重きを置いた授業を受け持った。しかし、現場を知



南山大学学長 ミカエル・カルマノ 29



カルマノ・セミの学生と一緒に東山動物園で

教室の中で「戦い」繰り返す

らない理論家である私によいチャンスが回ってきた。年間、大学教員との兼任で、愛知県が交付してくれた仮

中学校、高等学校で教える部は1993年に独立し、替えた、ということがあった。このような生徒を前にしての授業で、私はかなり苦労した。ある時、チョークを投げても静かにならないう疑問も湧いてきた。もう一つは自分自身や生徒・学生への認識について。

ことになったので、豊田の南山国際中学校・高等学校となったが、当初からは道徳の時間の代わりに宗教というだけで印象を受けたのは私だけではないと思う。その霧閉気を物語るいくつかのエピソードは今でも印象に残っている。

私が教えることになった学校は1981年に設置された、帰国子女を対象とする南山中

私が教えることになった学校は1981年に設置された、帰国子女を対象とする南山中
端急に言葉を日本語へ切り
ろうが、技術と専門知識と
を持って合わせるだけで「教える」ことになるのか、という疑問も湧いてきた。もう一つは自分自身や生徒・学生への認識について。
「帰国子女」「外人」「カルマノ・セミの卒業生」等のラベルや注意書き(「えさを与えないで下さい」)によって、円満な授業運営に欠かせないルールを守らせる必要はあろうが、これにはやはり学校教育特有の環境である。イメージは誤解を招くかもしれないし、何より、自分、そして学生は「教室」という檻の中にあることを忘れてはならないのである。